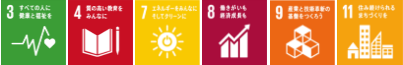



全体計画の概要：

桐生市が持つ、歴史、文化、自然環境等、多様な地域特性や地域資源、大学などの様々なつながりを活かし、先端技術とゆとりを持ったライフスタイルの融合により、「ゆっくりリズムのまちづくり」を進め、地域課題の解決やサステナブルな未来社会の確立を目指す。

1. 将来ビジョン	地域の実態	2030年のあるべき姿		
	奈良時代から続く繊維産業をはじめとしたモノづくりのまちとして栄えてきたが、人口減少や少子高齢化の影響から、地域活力の低下が懸念されている。	あらゆる人が力を合わせ、自然を感じ、豊かさを感じ、幸せを感じることができ、「住んでみたい、ずっと住み続けたいまち桐生」をつくりあげ、SDGsの達成にもつなげていく。		
2. 自治体SDGsの推進に資する取組	2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール・ターゲット	①イノベーションや公民連携で地域資源を活かした「稼ぐまち」(8.1、8.2、8.3、8.5、8.9、9.2、9.3)  ②豊かな感性を持ち世界にも通用する「人が育つまち」(4.1、4.2、4.3) ③全ての市民が安心していきいきと暮らせる「人にやさしいまち」(3.4、3.7、3.8、11.3、11.5、11.b、13.1、13.3) ④環境先進都市への挑戦による「地球にやさしいまち」(7.2、11.6、12.2、12.4、12.5、13.3) ⑤自然や歴史、文化を大切に「未来に継承していくまち」(4.7、11.3、11.4、14.1、14.3、15.1、17.17) 		
	自治体SDGsに資する取組	情報発信	普及展開性	
3. 推進体制	①地域資源のブランド化と収益向上 ②農林業の振興と担い手確保 ③多様な主体との連携による産業振興 ④起業・創業支援 ⑤デジタル技術等によるイノベーション促進 ⑥感性を育む人づくり ⑦世界にはばたく人づくり ⑧健康寿命の延伸 ⑨切れ目のない子育て支援 ⑩安全安心なまちづくり ⑪低炭素都市の実現 ⑫循環型社会の実現 ⑬自然と歴史、文化の継承	【域内】市広報紙や各種SNSの活用、出前講座の実施、市民団体と連携したイベント開催、「桐生市SDGs官民共創プラットフォーム」の創設等 【域外】市ホームページ、各種SNS、啓発動画配信、桐生ふるさと大使、広域連携等による発信 【海外】姉妹友好都市との交流、群馬大学留学生のネットワークを活用した母国への発信	・人口減少や地域活性化は全国共通の課題。 ・中心市街地から中山間地まで、都市部と自然豊かな環境の両方を持つ本市が、自然、文化、歴史その他の地域特性を生かし、官民が共創しながら、すべての人や環境にやさしく生活する新しい価値観を創出することで、地域課題の解決を図るものであり、幅広い地域で普及が可能。	
	各種計画への反映	行政体内部の執行体制	ステークホルダーとの連携	
(条例) 持続可能な開発目標(SDGs)を桐生市のまちづくりに生かす条例 (計画) 桐生市第六次総合計画 第2期桐生市まち・ひと・しごと総合戦略 桐生市過疎地域持続的発展計画 桐生市都市計画マスタープラン 桐生市男女共同参画計画 など	SDGs推進についての方針立案・決定機関である「桐生市SDGs推進本部(市長を本部長とし、副市長、教育長、全ての部局長で構成)」及び実務執行機関である「桐生市SDGs推進本部幹事会(各部署から選出された課長級で構成)」を設置し、庁内一丸となった体制で推進する。	【域内外】群馬大学、桐生大学、市内外の教育機関、商工団体、桐生信用金庫、鉄道会社、民間企業、報道機関、NPO、医師会など 【自治体】群馬県、みどり市、前橋市、渋川市、伊勢崎市、太田市、館林市、足利市など 【海外】コロンバス市(アメリカ合衆国ジョージア州)、ピエラ市(イタリア)、群馬大学留学生		
自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等	・あらゆる主体が連携しながらSDGsの推進を図るため、新たに「桐生市SDGs官民共創プラットフォーム(仮称)」を設置。 ・SDGs金融制度を構築。 ・SDGsに積極的に取り組む企業や団体を登録し、情報発信や表彰を行う「桐生市SDGsパートナー」登録制度を創設。 ・市民団体と連携しながら、市民参加型啓発イベントを開催。			